

人権なら

2019年2月1日

第98号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

人権侵害に注意して活用を

三宅町人権学習会でネットの危険性を学ぶ

第6回三宅町「人権学習講座」が12月11日、中央公民館であった
 =写真。奈良ふらっと市民会議の中野博章代表が「ネット社会と人権」をテーマに話をした。



中野さんは「インターネットと個人情報」を軸に話を進めた。日本のインターネット人口は80.9%。青少年のネット利用状況は小学生65.4%、中学生85.2%、高校生97.1%。奈良と全国のスマートフォン所有率は、ほぼ同じ。高校生では全国97.1%、奈良99.8%、と説明。この数字に参加者からは驚きの声が上がった。

また、「フェイクニュース」(虚偽の情報で作ったニュース)や、昨年のおおさか北部地震時の「流言飛語」(動物園が被害を受け、シマウマが街中を徘徊、と写真付きでネット拡散)を紹介。「メディア・リテラシー」の利便性だけを考えるのではなく、情報の良し悪しを判断できる能力や情報を活用できる能力が大切だと述べた。

個人情報の流出など、トラブル招く恐れも

次に、あなたや子どもが被害にあった時には、どのような対応が重要か、として、「深刻な事例」として、個人情報の流出や遠隔操作での「情報の抜き取り」を通じて、「(あなたに)なりすまし」、さまざま物を購入される事件や、人権を侵害される事件などを紹介した。

続いて、「幼児とネット社会」の状況として、2歳児の20%超がほぼ毎日、スマホを使用(ベネッセ教育総合研究所)。4歳～6歳児の40%超がスマホやタブレ

ットの情報端末を使用(2015総務省)、と説明。「最近の情報通信機器は操作も簡単で、便利だが、いろんなトラブルを招くツールにもなる」と注意を喚起。トラブルに巻き込まれたときは、県青少年サポートセンター(0742-22-0110)や、中南和サポートセンター(0744-22-0110)のほか、県・各自治体の相談窓口にご相談することを呼びかけた。



■ 中企協が確定申告相談会

中小企業者協会は2月7日から22日まで、支局会員を対象に2018年分「確定申告相談会」を開催する(前号既報)。一方、中小企業者協会会員を対象にした「相談会」は郡市町村ごとに下記日程で実施する。時間は午前9:30～11:30、午後13:30～15:30。会場はすべて三宅町あざさ苑2階和室。問い合わせは中小企業者協会:0744-33-3939まで。

日程	曜	対象郡市町村
2月25日	月	磯城郡
26日	火	川西町
27日	水	三宅町
28日	木	田原本町
3月 1日	金	奈良市・桜井市
4日	月	天理市
5日	火	
6日	水	御所市・葛城市・香芝市・北葛城郡・宇陀市
7日	木	大和郡山市・生駒市・生駒郡・他府県
8日	金	橿原市・大和高田市・五條市

大和郷・柳本周辺を歩く

人権部落解放研究所がフィールドワーク

奈良人権部落解放研究所の「人権パートナー養成講座」が11月14日にあった。この日は「大和郷・柳本周辺における地域社会の結びつき」をテーマにフィールドワークを行った。



コースはJR長柄駅―大和神社―淳名城入姫神社―五智堂―中山大塚古墳―長岳寺―柳本郷墓―崇仁天皇陵―専行院―新池―黒塚古墳―柳本陣屋跡。案内は県立同和問題関係史料センターの清水有紀さんと仲村智子さんが務めた。

大和神社(写真)は毎年4月1日に行われる祭礼「ちゃんちゃん祭り」がよく知られている。祝儀(芝銭)の徴収や、「翁の舞」「龍の口舞」(県無形文化財)、水神信仰と雨乞い行事などの説明は興味深かった。

真言密教の大道場で知られた長岳寺

平安時代には長谷寺・伊勢詣での道として賑わった古代の幹線道路、上街道を南に向かった。安政大地震の犠牲者を悼む石碑が境内にある淳名城入姫神社を経て、上街道から長岳寺参道への角に建つ「傘堂」「真面堂」とも呼ばれる五智堂に立ち寄る。中山大塚古墳から空海が開いたとされる長岳寺は、中世の盛時には、広大な寺領に多くの堂坊が建ち、真言密教の大道場として知られた。



南側にある柳本郷墓は、幕末には近隣10ヵ村の郷墓だったと「大和国三昧明細帳」に記載されている。残された石像物からは中世に遡ることができる。また、行基の開創とも伝わる「焼穴」「六地藏」「行基菩薩石像」「鳥木」などの施設の存在も記録されている。遺骸

の火葬・埋葬に従事する三昧聖が近くに居住していたと考えられる。郷墓内にある行基供養碑は、文化元年(1804)の行基1050年忌の際に建立されている。

崇仁天皇陵(行燈山古墳)では、「文久の修陵」とともに、「隍水の利用」などについての説明を受けた。専行院には柳本歴代藩主の墓所がある。新池―黒塚古墳―柳本陣屋跡(写真)へ向かう。柳本陣屋跡は現在の柳本小学校敷地内にある。柳本公園が隣接する。園内には、黒塚古墳展示館があった。



合理的配慮を身近に…

地域の中で出遭う不利益な取り扱いを巡って

「人権パートナー養成講座・スキルアップコース」が12月12日にあった＝写真。テーマは『合理的配慮を身近に…』―できることからコツコツと…!。講師は奥田



陽子さん(写真。社会福祉法人ちいろば会・主任)。

奥田さんは「ちいろば園」の紹介から話を始めた。園は三郷町にある。おもに知的障害を持つ人たちが通所している。なかには身体障害、精神障害の人も来ている。町内にはグループホームが5カ所で運営されている、と話した。



次に、「障害者差別解消法」や、「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」など、法律や条例ができた背景を説明。さらに、地域で出遭う「不利益な取り扱い」や、「合理的配慮の無さ」について、具体的に遭遇した場面や、状況などを紹介した。また、奈良人権部落解放研究所刊の「サポートブック これからの人権の学び」を基にして話を進めた。

参加者からは率直な質問・意見が出て、話が膨らんだ。

ハンセン病問題を学ぶ

スターとラインが稲葉耕一さんを招いて

「スターとライン」(学習会)が12月4日、三宅町・あざさ苑であった。

テーマは「ハンセン病問題」。講師は県内で活動している



「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」の稲葉耕一・会長。

学習会は、東和圏域にある福祉現場で働く人たちが「普段、意識しなければ見えないこと、そんなテーマに光を照らしたい」と、開催している。

稲葉さんはまず、「ハンセン病を正しく理解するために」と題したDVD「人間回復の橋・心のかけ橋となれ」と、同「ハンセン病療養所 語り部証言集」(岡山・長島愛生園/邑久光明園)を上映。全員で鑑賞した。

このあと、話に移った。ハンセン病は「らい菌」によって起こる感染症。感染力は極めて弱い。現在は、早期発見と治療で完治する。日本における患者に対する「強制収容と隔離政策」は、1907年の「癩予防法二関スル件」の制定から1996年の「らい予防法」廃止まで、90年間続いた。



長島・奈良を結ぶ会が毎年、「架け橋美術展」

強制収容・強制隔離されてきた患者たちの「らい予防法」廃止に向けた全国的な闘いや、「国家賠償訴訟」(2001年)の闘いとともに、岡山愛生園や邑久光明園の映像と、その中での語り部たちの表情と言葉の1つ1つが、学習者たちの胸に突き刺さった。

「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」は、奈良の回復者たちと友達になろうと、1979年に発足した。交流を重ねながら、回復者の美術・文芸作品などを紹介するために、1982年から毎年、県内各地で「架け橋美術展」を開催している。

稲葉さんは長島愛生園の中尾伸治・自治会長との出会いと交流についての感慨深い思い出を語った。

最後に、ハンセン病の患者家族も国の政策で厳しい差別を受けてきたとして提訴された「国賠訴訟」(2016年2月3日)を紹介。「この裁判は沈黙を強いられてきた家族が元患者の家族として向き合い、人間性を取り戻す闘い」だ、と話を結んだ。

李信恵さんがヘイトを報告

部落解放研究第52回全国集会在11月27-29日、岡山県であった

＝写真。あらゆる差別の撤廃にむけた協働の取り組みを前進させ、



「部落差別解消推進法」の具体化と包括的な人権の法制度の確立をめざそう、がテーマ。久しぶりに参加したが、参加者の少なさに驚いた。

初日は全体集会。記念講演「改憲問題をどう考えるか」(伊藤真・弁護士)、特別報告「部落差別解消推進法」具体化と部落解放行政の推進にむけて(西島藤彦・部落解放同盟中央書記長)があった。2日目は7つの分科会とフィールドワーク。3日目は2本の特別報告で、李信恵さん(フリーライター)の「ヘイトスピーチを許さない社会をめざして」、尾辻かなこ・衆議院議員の「LGBTQをめぐる私たちの課題」があった。

会場で同盟横浜市協の根本信一さんとハンセン病回復者の石山春平さんに出会った。石山さんは著書『ボンちゃんは82歳、元気だよ！ーあるハンセン病回復者の物語りー』(社会評論社)を販売していた。1冊購入し、サインをしてもらった。人なつっこい笑顔が素敵だった。著書は石山さんの物語であるとともに、この国と地域社会の時代をも浮かび上がらせている。



「消された精神障害者」

写真展・映画上映・書籍出版・TV放映で世に

沖縄・辺野古新基地建設に反対するキャンプ・シュワブゲート前で
の座り込みや、
海上での抗議
行動が続いて
いる。政府は1
2月14日、沖
縄の圧倒的な民意と抗議の声を踏みにじり、土砂投入を強行。以降、埋め立て工事の蛮行を続けている。



こんなさなか、昨春、明らかになった沖縄県での精神障害者を隔離していた「私宅隔離」の小屋の存在が関心を集めている。100年前に精神障害者の救済に奔走した医師・呉秀三の足跡を追ったドキュメンタリー映画「夜明け前」が公開されたり、写真展「闇から光へ 知られざる沖縄戦後史～精神保健の歩みを見る・聴く」が各地で催されたりしている。

NHKも昨年6月、ハートネットTVで「闇に埋もれた真実(2) 『消された精神障害者』」を放送し、「大きな衝撃」を与えた。この1月、この番組を再放送した。

編集後記 ★★★★★★★★★★★★★★

厚生労働省による「毎月勤労統計」は不正調査だった。全数ではなく、一部を抽出していたのだ。15年も続いてきた。政府の基幹統計が、このごまだ。結果、統計を基に給付水準が決まる雇用保険などが過少給付されてきた。現政権をはじめ、官庁などの国家機関、大企業、大学など、至る所で文書改ざん、データ偽装、ねつ造、隠蔽など、超ド級の不正が横行しまくる。権力者らは自らに都合良く情報や数字などを操作。歴史までも改ざんする。そのあとは腐敗構造を抱えたまま幕引きだ。私たちはフェイクが跋扈する危うい世界に生きている。政治や統治機構の大変革が必須だ。

さらに、『消された精神障害者—「私宅監置」の国を照らす犠牲者のまなざし—』が12月に出版された。

写真パネルは12月1、2日にあった「ピープルファースト奈良大会」会場で展示され、観ることができた。圧倒的な「写真の力」と、その衝撃に身動きができなかった。写真の1つ1つに解説が添えられ、それらの「言葉」にも息をのんだ。



「この邦に生まれたるの不幸を重ねるもの」

写真展では、「私宅監置とは、精神障がい者を自宅裏座や敷地内の隔離するもので、精神病者看護法(1900年制定)に基づく措置でした」と説明。冒頭に、呉修三・医師の「わが邦十何万の精神病者は実に、この病を受けたるの不幸のほか、この邦に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」のことばがある。

山田圭吾・沖縄県精神保健福祉会連合会会長は「戦後日本では1950年に廃止されましたが、日本から切り離された沖縄では1972年の『日本復帰』まで認められました。…写真展によって、このつらい歴史が沖縄で広く共有され、当事者の尊厳回復と、誰もが自分らしく生きていける社会の実現につながることを切に祈ります」と述べている。

書籍『消された精神障害者』は原義和さん(フリーテレビディレクター)が編著、高橋年男さん(沖縄県精神保健福祉会連合会事務局長)が解説する。「高文研」が昨年12月に出版した。申し込み・問い合わせは連合会事務局:098-889-4011まで。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/